

## 平成29年度第11回講演会 記録

日 時	平成 29 年 9 月 23 日
会 場	此花会館梅香殿
講 師	大正大学 人間学部 人間環境学科 准教授 山内 明美 先生
演 題	南三陸町における森里海連環の取り組み
備 考	参加者数 131 名 (会員 111 名、一般 15 名、公開講座 5 名)、 岩佐 記録

## 1) 南三陸町と「森里海連環学」

- ・ 昨年、南三陸町は長期総合計画を作成し町づくりの方針として「森里海ひと いのちめぐるまち 南三陸」とし、人づくりに森里海連環学を活用することになった。
- ・ 南三陸町は分水嶺に囲まれ、8 本すべての川が志津川湾に流れ込み、降った雨全てが志津川湾に流れ込む。  
志津川湾には豊富な資源があるが、子供の時より家庭より出した物が全てこの湾に注ぎこみ、これをよごせば漁師さんが困る事を知っている。
- ・ 震災後、この循環を森里海曼荼羅をつくり小中学校での教育に使用している。



## 2) 災害多発地域の自然観

- ・ 仏教発祥地のインドでは仏になれるのは菩薩のみだが、中国では徳を積めば人間までが仏になれる、日本に至って草木や石ころなど全てに仏が宿るとみなされる様に変化してきた。
- ・ 三陸では恵比寿が大漁の神とする恵比寿信仰がある。クジラ、イルカ、ウミガメなど全てエビスと呼ばれ、神の来訪、めぐみの来訪とされるが、海難事故で漂着した遺体や津波での遺体もエビスとみなされ、良い事も悪い事も全て運んでくるとされている。
- ・ 草木などを供養する草木塔は東北に多く山形県には全国の90%が集中していると言われる。南三陸町戸倉寺浜にも「干魚の供養塔」があり何でも供養している。
- ・ 南三陸町水戸部には「奉一切有為法躍供養也」の石碑があり、世界全ての現象、諸行無常を踊って供養する水戸部行山流鹿踊りが伝わっている。
- ・ 自然の力は大きく人間ではどうこうできないが、海は三陸の人にとって宝物だが猛威を振るう時もある。これを怖いと言う人もいるが海で暮らす漁師は海を憎んでいない。水戸部の人のあらゆる物一切を供養しなくてはならないというメンタリティーを我々はなくしているのではないか。
- ・ 災害は地震・津波という自然災害に終わらず、福島原発事故が発生している。チェルノブイリ原発の事故のあとドイツのウルリッヒベルグが社会状況は産業化社会からリスク社会に突入しつつある論文で発表した。技術が進んでいく水面下でいろんなリスクが積み上がってきている。
- ・ 自然災害に続く原発事故からの復興は現在進行形だが、富岡町や浪江町の例からも復興が進んでいるとは思えない。

## 3) 風土と復興

- ・ 南三陸町弘川集落は300年間10軒で存続してきた集落だが限界集落とよぶのだろうか？農村のコミュニティーは人は少ないが密接なコミュニケーションがあり、一方都市のコミュニティーはアパートで隣の人も

顔を合わせた事がないなど都市の中の過疎というべきではないか。

人と人との間に分断線がなく、自然環境と人との間にも分断線がない。いたんだ海も、津波も供養する。風も光も空気も全て供養する風土。

- ・復興事業で景色が変わってしまっているのにショックを受ける。山をくずして盛り土をし、陸と海をコンクリートで固めて無数の分断線ができています。激甚災害法は復興優先で環境アセスメントは必要なく行政は早急の復興を強調するが、今後は復興管理とアセスメントを同時に考えていく必要がある。
- ・南三陸町は FSC 森林国際認証や ASC 養殖漁業国際認証をとり来年ドバイでのラムサール条約湿地登録を目指しているがラベルが目的ではない。自然らしさをもって管理し、これ以上自然を痛めたくない。元にもどすだけでなく、よりよい環境に変える復興を目指している。
- ・森里海連環の中で物事を考え復興していく事を南三陸は選択した。「森里海連環」では自然科学の感じがするので町の人の意見であえて「ひと」をくわえ長期総合計画「森里海ひと いのちめぐるまち 南三陸」とした。

#### 4) Q&A

Q：南三陸へ行ってショックを受け、その後講演会を聞いたり、産物を取り寄せたりしてきたが、今私にできることは何でしょうか？

A：南三陸の人々を支え一緒に歩いて行くという世論を作ってもらうのが一番ありがたい。

Q：激甚災害法を変えていく動きがありますか？

A：1953年に出来た古い法律を適用しているので、現状にそぐわないことがあり、早く変えることを提言している。

Q：仮設商店街サンサタウンの人々は、恒久施設が完成し、そちらに移ったとのこと、新しい生活拠点ができ復興に向け元気に頑張っていますか？

A：震災前は住民の暮らしの中に商店街があった。震災後、住宅の高台移転で職住が分離し、サンサタウンは観光商店化した。高台の住民は住宅地の中に作った外部資本のイオンタウンで買い物をしており、町並の設計に対し、何かおかしい感じがする。

#### 5) 田中先生コメント

- ・復興の為に南三陸と同調する世論を構成していく事、まさにそのとおりだ。
- ・環境省のプロジェクト「つなげよう 支えよう 森里川海」プロジェクトに賛同する首長も出てきている。この首長の数を増やしていく事、同時に南三陸のように地元の大事なものを活かしてその方向に動かして行く地元の地域の取り組みが大事。環境省の中にその仕組みができつつある。
- ・技術を押し進めて豊かな生活を目指すのではなく失ったものは何かを考え直して次の世代に伝える事が重要
- ・森里海がつながるキーは「ひと」。森里海ひととしたのはすばらしい。

以上

